



<摂食・嚥下の取り組み・口腔ケア>

摂食・嚥下障害患者さんに対し、その人の機能に適した食形態・量・体位を重視し安全な食事摂食ができるように、多職種と連携を図りながら段階的な基準に基づき嚥下食設定やポジショニングの工夫を行ない対応しています。

「食事を口から」を大切に考え、食べることが社会復帰への力につながると考え摂食嚥下に力を入れ取り組んでいます。嚥下機能を確認し、安全に実施しています。

まずは、

- ① 口腔ケア（口を清潔に保ち食事が出る状態にします）。
- ② 嚥下体操を行い、食事をする準備です。
- ③ アイスマッサージで口腔内を刺激します。



< えん下食 1 >



- ④ えん下食 1（ゼリー）から開始です看護師・言語聴覚訓練士と一緒に安全に食事を食べる練習です。

<えん下食 2 600 カロリー>



- ⑤ 少しずつ食事形態を変化させていきます。
ゼリー状 → とろとろ → 粒粒
のように舌触りが変化していきます。

最終目標は形のある食事（ふつう食）です。

嚥下障害の患者さんは誤嚥性肺炎になりやすいので、予防のため口腔ケアに力を入れています。



<口腔ケアの用具と実践> . . . **口腔ケアは毎食後行います**

特に嚥下障害の患者さんは誤嚥性肺炎になりやすいので、予防のため口腔ケアに力を入れています。



- ・自分でできない患者さんは看護師が専用の吸引歯ブラシを用い口腔ケアを行なっています。



開口器です

